

平安時代の建造物はいくつある？

- (A) 0棟 (B) 1棟 (C) 3棟 (D) 5棟

世界遺産奈良の平城京跡には、薬師寺東塔、唐招提寺金堂、東大寺正倉院など1200年以上前の奈良時代に建てられた建造物が十数棟残っている。それでは、同じ世界遺産京都の平安京跡には、平安時代の建造物はいくつあるだろうか。

答はゼロ。平安時代以前に建てられ、国宝や重要文化財に指定されている木造建造物は、現在、全国に67棟ある。しかし、旧平安京の京都市内には一つも残っていない。京都が、南北朝の争乱、応仁の乱など幾度も戦乱に見舞われたのが大きな理由だが、それは奈良も同様で、東大寺の大仏殿は兵火で二度焼失している。戦乱以外にどのような理由があるのだろうか。

平安以前の建造物67棟のうち、じつは64棟が寺院建築である。ところが、平城京には多くの寺院が建てられたが、平安京には、東寺（焼失し、再建）と西寺（大火などで焼失、再建されず）の2寺が建てられたのみで、他の寺院は国策によっていつか建てることが許されなかつたのである。仏教勢力の政治への介入を断ち切ることが、平安遷都の大きな理由でもあったからだ。ただ、都の周辺については、この規制はなく、伏見の醍醐寺五重塔や金堂、太秦の広隆寺講堂、宇治の平等院鳳凰堂など、洛外には平安時代の建造物が今も残っている。

ちなみにこれも意外だが、鎌倉市内に鎌倉時代の木造建造物は一つもない。神奈川県内唯一の国宝建造物で、かつては歴史教科書で鎌倉時代の代表建築と記載されていた円覚寺舍利殿も、最近の研究では室町時代に他から移築された建物であることが明らかになっている。

答 (A) 0棟



夕雲の東寺五重塔

東寺は平安時代に建てられたが、五重塔は落雷で焼失、講堂などは大地震で大破。いずれものちに再建された。

